

東京農工大学卒業生の大学教育への評価

吉永契一郎（大学教育センター）

Analysis of the Survey among TUAT Graduates on their Undergraduate Experience

Keiichiro Yoshinaga

According to the extensive survey of the TUAT graduates, they worked hard on the laboratory work during their undergraduate days and appreciate their experience after graduation. This is valid across the generations they belong to. Although most of them had neglected social scientific knowledge and language skills, they were able to acquire those knowledge after graduation. The survey indicates that TUAT is successful in training its students, although lecture courses and language education need some modification.

1. はじめに

2006年2月に、大学教育センター、東京農工大学同窓会の協力を得て、東京大学教育学研究科矢野眞和教授との共同研究「大卒者の教育経験・キャリア・大学教育への評価に関する調査」を卒業生に対して行った。このプロジェクトの目的は、「大学での教育、キャリアと、大学教育への評価がどのような関係にあるのか」を調査することである。ここでは、東京農工大学の卒業生についての結果を、主に、世代間による違いに焦点を当てて報告したい。

調査は、1965年より2000年までの東京農工大学卒業生6000名（各学部3000名ずつ）を対象に実施された。回答者数は、各学年各学科に均等に配分し、回答者は、無作為抽出によって選んだ。

その結果、2128名からの回答を得ることができ、現在あて先不明になっている回答者を除く回収率は35.8%であった。概報は、本報告書の後半部分である。

なお、回答用紙は無記名で個人が特定できないほか、アンケートの発送から回収まで、大学教育センターが担当することによって、卒業生の個人的なデータは学外に提供されていない。

実際の回答者の卒業年次による世代ごとの分布は表1の通りである。これによると、世代ごとの回答状況は均等であることがわかる。

以下の調査結果で、すべて横軸は、表1に対応した世代ごとの分類であり、評価の点数は、4点満点である。

表1 世代ごとの分布

①	-1969	13.7%
②	1970-1974	15.9%
③	1975-1979	15.9%
④	1980-1984	14.6%
⑤	1985-1989	13.4%
⑥	1990-1995	12.3%
⑦	1995-	14.2%

2. 卒業生全般の特徴

卒業時に身に付けた能力として、卒業生全般に見られる特徴を問8に従って探ってみると、図1のようになる。これによると、卒業生は、在学時、専門や専門基礎、対人関係の能力を身に付けており、英語や社会・経済に関する知識はあまり身に付けていないという意識を持つ。これは、専門教育を中心とした農工大の教育の特色をよく示していると思われる。

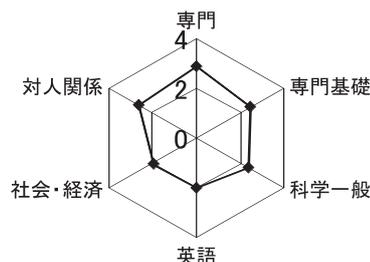


図1 卒業時の能力

3. 学歴

修士課程と博士課程を合わせた大学院進学率(問26③)は図2の通りである。これによると農工大は60年代から、大学院への進学率が15%を超えている。そして、進学率は世代が進むにつれて着実な増加を見せ、最近では、50%に迫る勢いである。

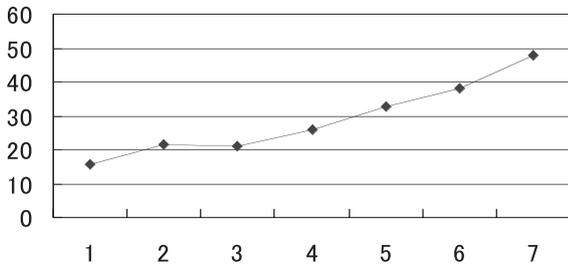


図2 大学院進学率 (%)

4. 現在のキャリア

現在の職種(問15b)については、図3に示されるように、40歳台の半ばに、製造現場から管理部門への移動が見られる。

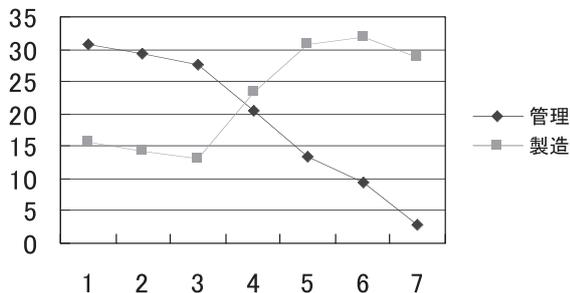


図3 職種 (%)

また、それに伴って、図4に示すように、専門分野でない仕事(マネジメント・事務・営業)(問15c)に就く割合も古い世代ほど多い。ただし、研究室時代の専門分野をそのまま仕事で生かしている卒業生の割合は、世代を問わず10%程度である。

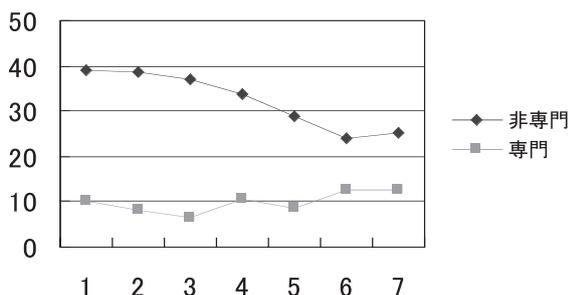


図4 専門との関係 (%)

従業員、1000名以上の会社に勤める世代ごとの卒業生の割合は、図5の通りである(問14b)。これによると、80年代後半、バブル景気の時代が大企業への就職のピークだったことがわかる。

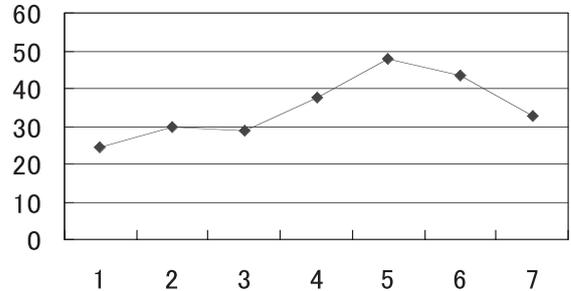


図5 従業員1000名以上の会社へ勤務 (%)

図6に示すように、卒業生の仕事に対する熱意(問13)は、3.4程度と、一般的に高い。

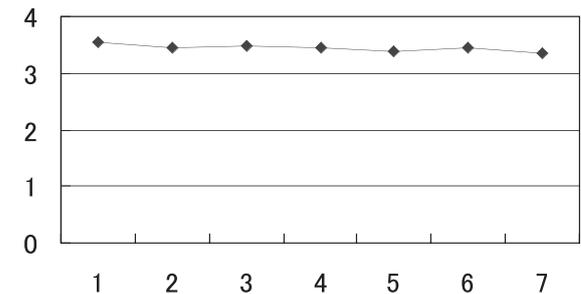


図6 仕事に対する熱意

そして、この熱意に連動すると思われるのが、図7の仕事の業績(問19)及び図8の仕事に対する満足度(問20)である。いずれも、3点前後であり、熱意が報われる形となっている。

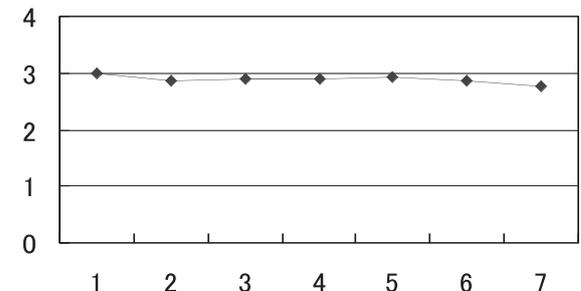


図7 仕事の業績

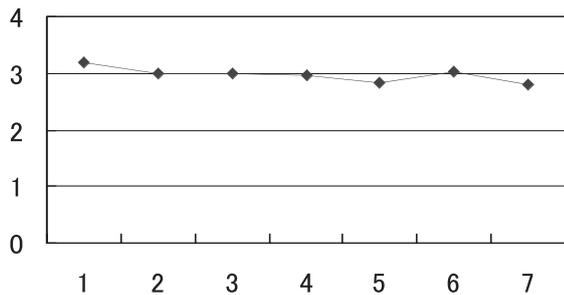


図8 仕事に対する満足度

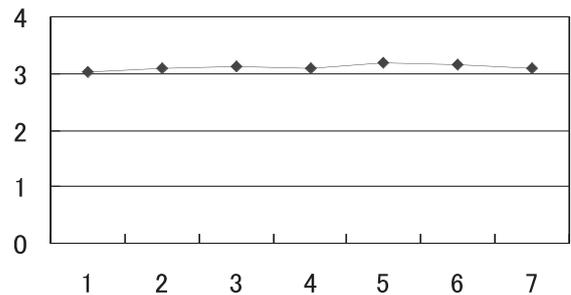


図11 研究室での交流

また、昨今、仕事上の語学力の必要性（問16a）が盛んに喧伝されているが、図9に示されているように、農工大の卒業生は、それほど語学力が必要としていない。これは、卒業生の多くが生産部門のエンジニアという職種の特性によると思われる。

ただし、図12に示されるように、研究室教育に比較して、講義科目（問3a）に対する評価はやや下がる。この点は同じ専門教育であっても、今後、教育改善が求められる部分であろう。

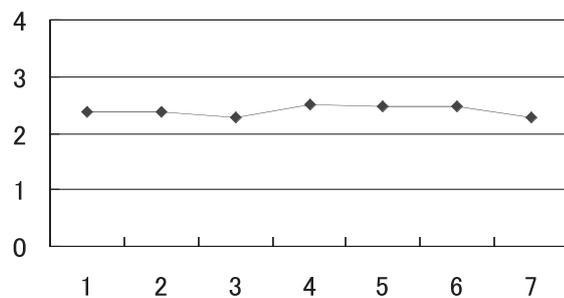


図9 語学力の必要性

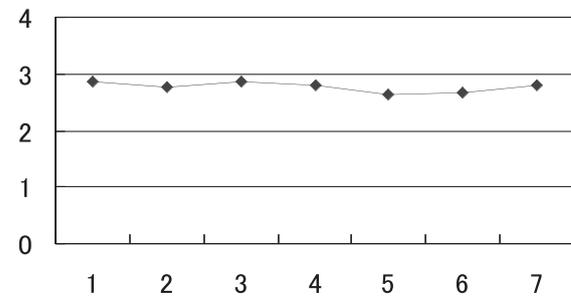


図12 講義科目

5. 大学時代

図10・図11に示されるように、研究室における実験・演習（問5c）・交流（問5d）に対する評価は、3点を超えており、良好である。「高度専門職業人」の育成は、農工大の教育目標であり、この点において、目標は達成されていると考えられる。

そして、図13、図14に示されるように、英語教育（問7a）、専門以外の教育（問7b）、に対する評価は、2点前後で低い。

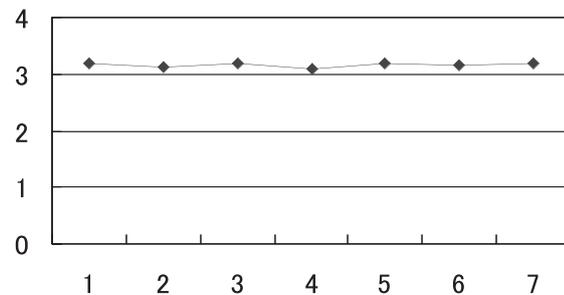


図10 実験・演習

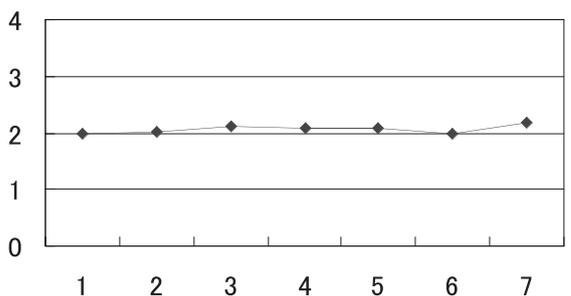


図13 英語教育

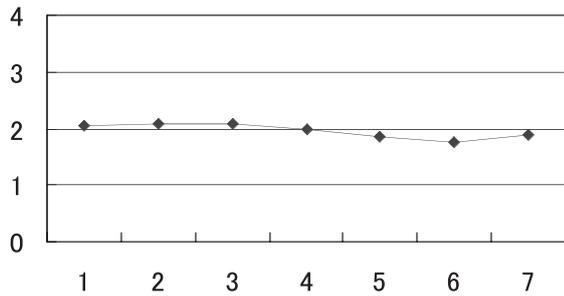


図 14 専門以外の教育

卒業生は、図15・図16に示されているように、体育会・サークル活動（問3f）についてもアルバイトについて（問3g）も、研究室における実験・演習ほど、熱心には取り組んでいない。課外活動やアルバイトが大学生活の中心となる文系の大学生と比較して、農工大の卒業生は、専門教育、特に卒業研究中心の学生生活を送っていることがわかる。

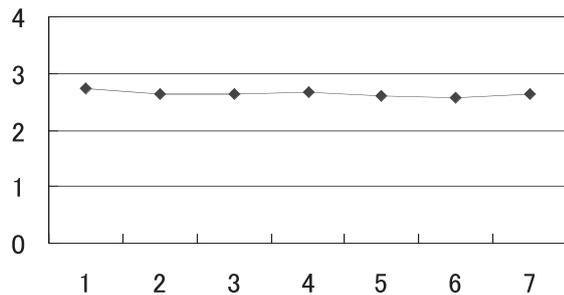


図 15 体育会・サークル活動

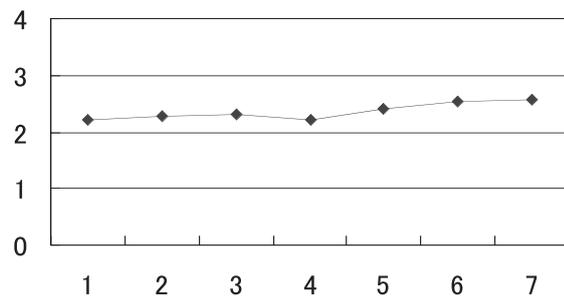


図 16 アルバイト

6. 大学教育に対する評価

すでに示されているように、農工大の卒業生が、大学教育で最も評価するのは、卒業研究である。そのため、図17に示すように、卒業論文がキャリアに役立ったと

する度合い（問24d）も高くなっており、図18に示すように、研究室での指導体制に対する満足度（問6d）も高い。

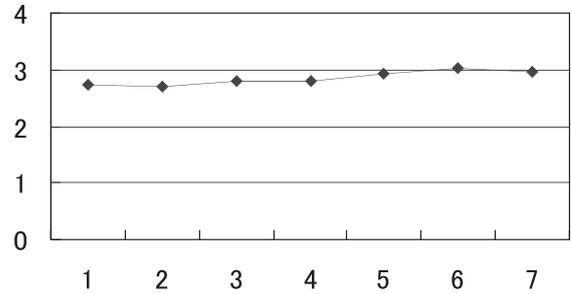


図 17 卒業研究

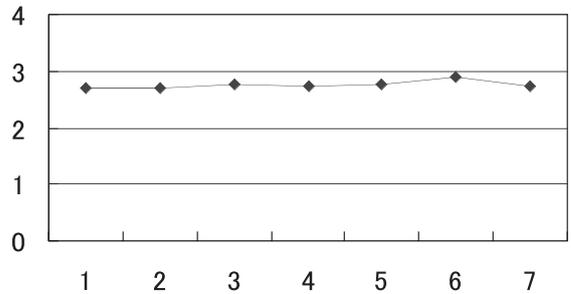


図 18 研究室での指導

卒業研究がキャリアに役立ったとする卒業生が多い中で、図19～22に見られるように、語学教育（問24f）に対する評価は低い。

若い世代では、一般教育（問24g）に対する評価が下がっている（第6～7世代では、それぞれ、第1～3世代よりも、1%有意で低い）のに対して、アルバイト（問24i）に対する評価が上がってきている（第6～7世代は、それぞれ、第1～2世代に対して、1%有意で高い）ことが指摘できる。

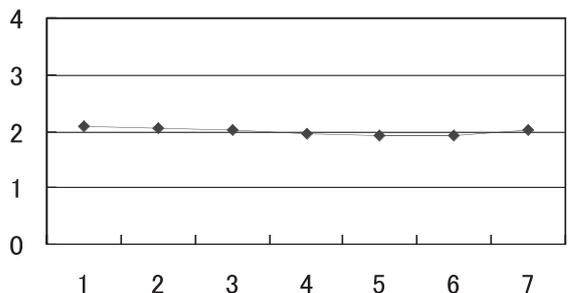


図 19 語学教育

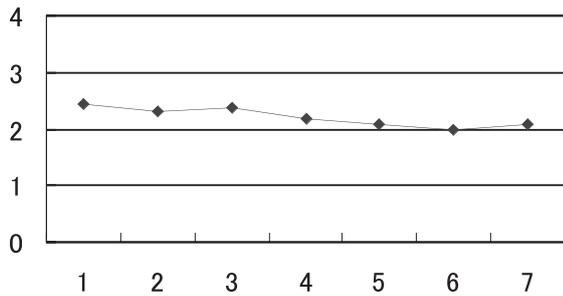


図 20 一般教育

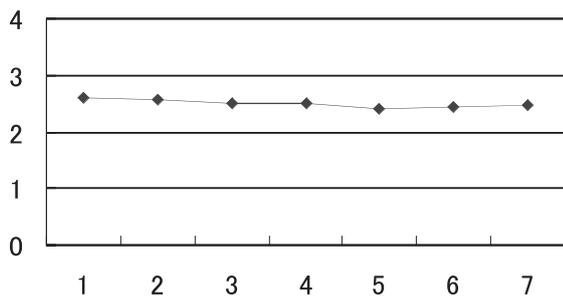


図 21 体育会・サークル活動

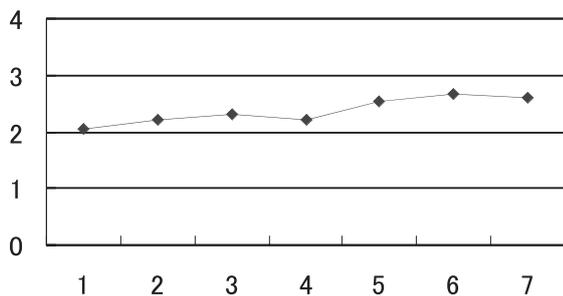


図 22 アルバイト

7. 大学在学時と現在の能力の比較

図23に示されるように、卒業生は、卒業時に身に付けた専門性が、現在は、少し下がっていると考えている(問8a&問21a).

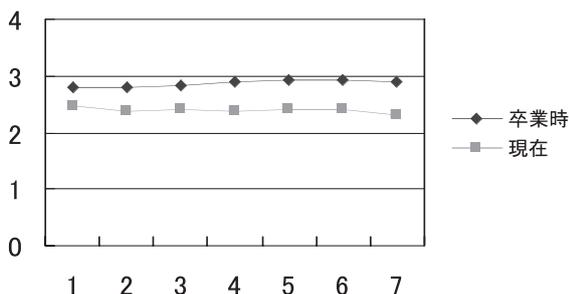


図 23 卒業研究における専門性

これと対照的なのが、図 24 に示される、基礎科学についての知識・能力(問8d&問21f)である。これは、卒業時よりも現在の方が高いとする回答が、世代を問わず多い。これによって、卒業生は、卒業後に、自然科学についての関心の幅を広げていることがわかる。

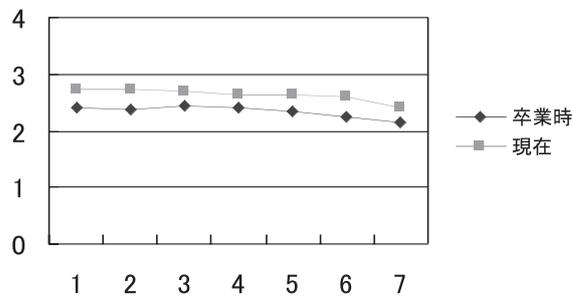


図 24 基礎科学についての知識・能力

同様なのが、図25~28に示された、語学力(問8e&問21e)・社会・経済・政治に関する知識(問8f&問21f)・対人関係能力(問8g&問21g)・プレゼンテーション能力(問8h&問21h)に対する自己評価である。

これらの能力についても、卒業生は、いずれも現在の能力の方が高いと考えている。

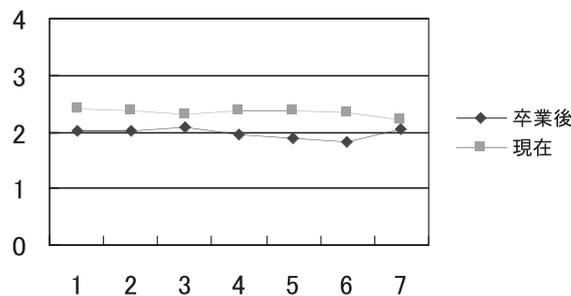


図 25 語学力

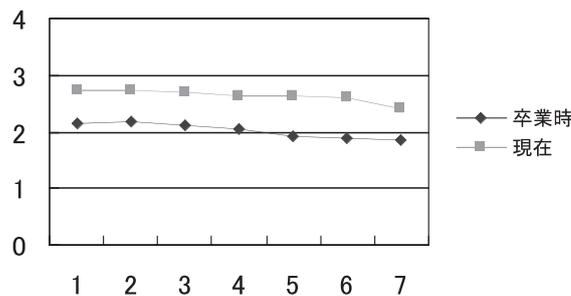


図 26 社会・経済・政治

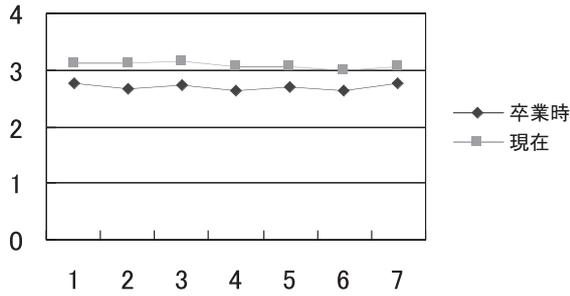


図 27 対人関係能力

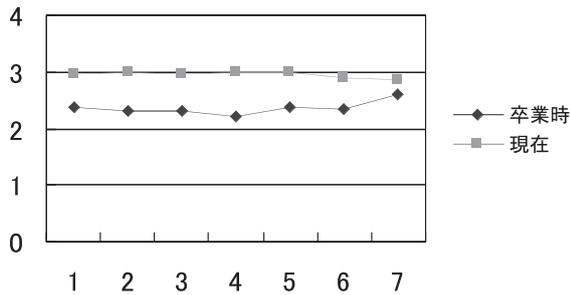


図 28 プレゼンテーション

8. 大学在学時と現在の関心の比較

図29・図30に示されるように、専門科目への関心（問3a&問25a）は、卒業後に高くなり、実験・演習への関心（問3c&問25b）は、さらに高くなる。これは、農工大生の専門志向が卒業後も続いていることを示す。

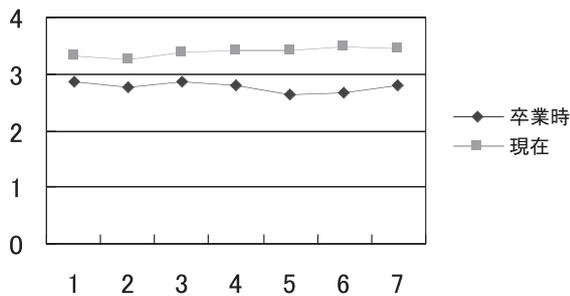


図 29 専門科目

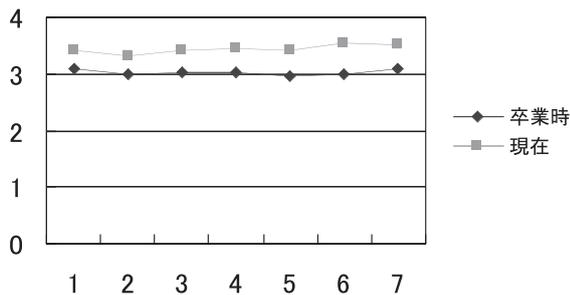


図 30 実験・演習

図31・図32に示されるように、語学への関心（問3d & 問25f）・一般教育科目への関心（問3e&問25g）は、ともに現在の方が高い。これは、卒業後の社会経験が、これらの教育への関心を高めていると考えられる。

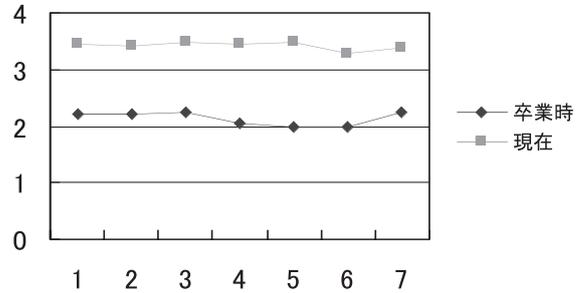


図 31 語学

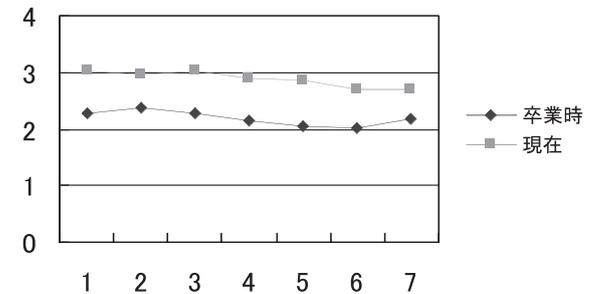


図 32 一般教育

図33～35に示されているように、読書傾向としては、思想書（問22a & 23a）・ノンフィクション（問22c & 問23c）に対する関心は、ともに在学時からの変化がない。ただし、思想書について卒業時、第4～7世代は、それぞれ、1%有意で、第1～3世代よりも関心が低下しており、1980年代以降の卒業生の関心の変化が読み取れる。マンガ（問22d & 23d）に関する関心は、卒業後、薄れているとはいえ、若い世代ほど高い。

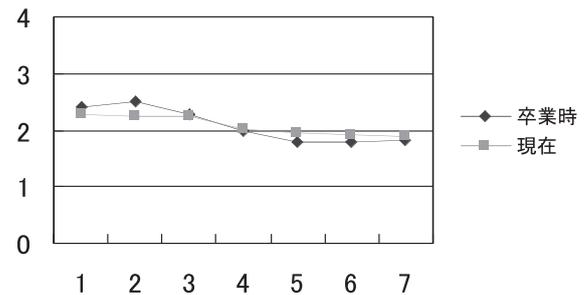


図 33 思想書

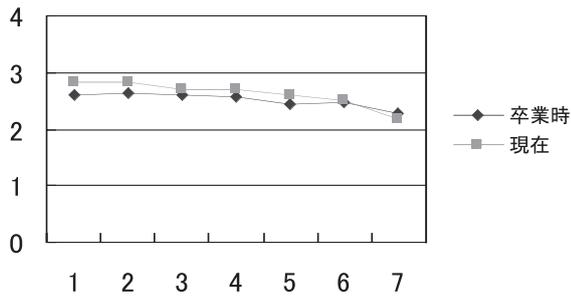


図 34 ノンフィクション

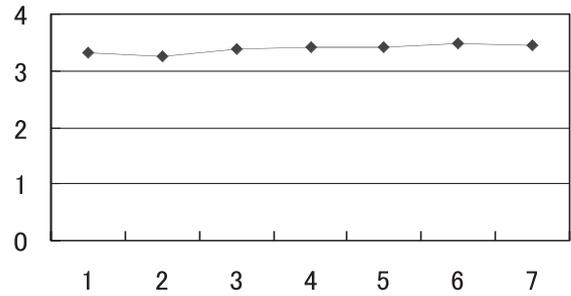


図 37 専門講義

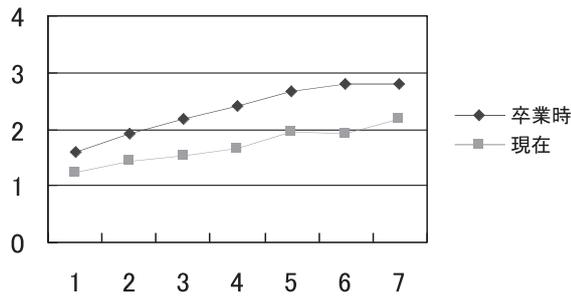


図 35 マンガ

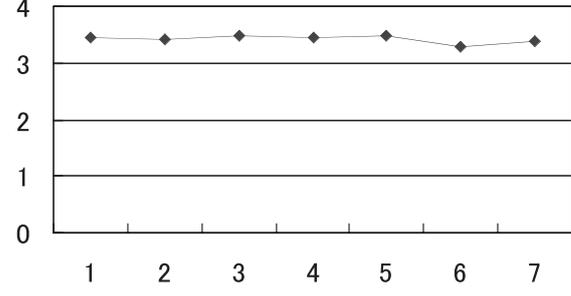


図 38 語学

9. 大学時代をやり直すとしたら

それでは、仮定の話として、卒業生が、もう一度、大学時代をやり直すとしたらどう考えているのであろうか。図36～38に示すように、相変わらず、実験・演習(問25b)に熱心に取り組みたいと考えており、専門科目の講義(問25a)や語学(問25f)にも取り組みたいと考えている。

しかしながら、図39に示すように、一般教育(問25g)については、それほどでもなく、特に、若い世代では、熱心に取り組みたいと考えてはいない(第6世代と第7世代は、それぞれ、第1・第3世代よりも1%水準で、有意に熱意が下がる)。一般教育の要件が大幅に削減されている世代ほど、一般教育に対する関心は下がる。

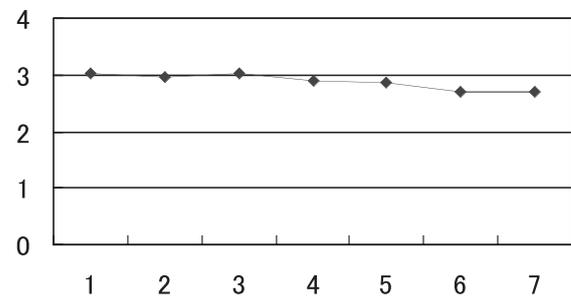


図 39 一般教育

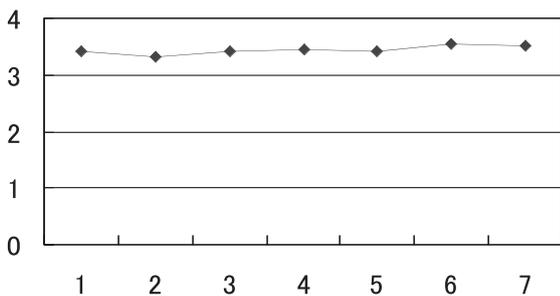


図 36 実験・演習

10. 考察

以上のことから、農工大の卒業生は、一貫して、大学院への進学率を上げており、卒業後は、熱心に仕事に取り組むことによって、業績を上げ、高い満足度を得ていることがわかる。そして、多くが、キャリアの前半を生産現場の技術者として、後半を管理職として過ごしていることがわかる。

卒業生が、在学中、最も熱心に取り組んだのは、クラブ活動でもアルバイトでもなく、研究室における実験・演習である。研究室では、さらに、教員や他の学生との交流を通じて、人間関係も学ぶことができたとしている。そのため、現在でも、専門教育に対する関心は高く、もう一度、学生生活を繰り返すとしても、もっと専門の講義・実験・演習に取り組みたいと考えている。

ただし、同じ専門教育であっても、在学中の講義科目に対する評価は低い。これは、卒業後も専門科目に対する関心は継続するだけに、残念な結果である。研究室教育は別にして、一般的に、講義科目（コースワーク）に対する学生の不満は、日本の大学に共通の問題であり（覧具，2005）、今後、教育体制の改革や、FD活動、授業アンケート等の活用によって、教育改善を行う必要が認められる。

専門性が、学生時代の成果であるのに対して、語学・社会・経済に関する知識は、就職後、自分で身に付けたとする回答が多く、再び、学生時代を繰り返すとしても、一般教育に、それほど熱心に取り組みたいとは考えていない。

大学設置基準の大綱化以降、農工大の教養教育要件は、表2のように減少している。この点において、現在のカリキュラムは、卒業生の希望にも沿っていると言えるであろう。ただし、本調査においては、若い世代ほど、一般教育に対する自己評価が低いという結果も出ており、必修と自由化で議論が分かれるところである。

表2 教養要件の推移

	～1993年	～1999年	現在(農)	現在(工)
基礎ゼミ			2単位	2単位
総合・主題科目			4単位	2単位
人社会科目	24単位	16単位	6単位	6単位
自然科学科目	12単位	6単位	4単位	
外国語科目	8単位	8単位	8単位	8単位
保健体育	4単位	2単位	2単位	1単位
教養科目	48単位	32単位	26単位	19単位
専門科目	84単位	84単位	82単位	88単位
卒業要件	132単位	132単位	124単位	124単位

一般教育と異なり、語学教育については、もう一度、大学生生活をやり直した場合には、熱心に取り組みたいと考えている卒業生が多い。この点に関して、現在、農工大は、TOEICなど実践的な英語力を教育の一部に取り入れるなどの方策を採っており、学生の期待に応えようとしている。

調査結果から言える事は、過去40年間、日本社会が、経済的には大きな変動を経験しながらも、農工大の卒業生は、世代を超えて、在学中から専門教育に力を注ぎ、卒業後も、その専門性を生かして活躍しているという特色である。昨今の大学改革においては、新規性ばかりが着目されているが、まず、確認されるべきは、これまでの大学教育の地道な成果と卒業生による教育評価であるということ強く感じさせる調査結果であった。

なお、本調査は、卒業生による自己評価であるが、一昨年、文部科学省によって行われた調査によると（文部科学省，2006年）、若い世代の研究者については、自己評価・他世代からの評価ともに、社会常識・一般教養・

国際性が劣るという結果が出ている。

したがって、専門重視の傾向は、農工大の卒業生に限ったことではないのだが、今後、現在の若い世代が管理職への移動を経験した際に、どのような経験をし、どのような分野の能力に不足を感じるかは、関心が持たれるところである。

参考文献

覧具博義，「大学卒業生の進路に対応した基礎物理教育の調査・研究」、『平成15年度～平成16年度科学研究費補助金（基盤研究C）研究成果報告書』，2005年。
文部科学省 科学技術・学術政策局 調査調整課，「我が国の研究活動の実態に関する調査報告（平成17年度）」，2006年。

謝辞

本調査に当たっては、矢野真和教授、当時、東京大学大学院教育学研究科21世紀COE特任研究員で、現在、リクルート・ワークス研究所勤務の濱中淳子さんにお世話になりました。ここに、お礼を申し上げます。

大学入学以前のことについてうかがいます。

問 1 高校時代までの生活

《高校時代までの生活について》	(4)
a. 乗り物, 電気製品, コンピュータ等の機械機器に興味があった	2.63
b. 動物, 植物等の生物に興味があった	2.88
c. 環境問題に興味があった	2.53
d. 理数系科目に興味があった	3.37
e. 社会・政治・経済の動向に興味があった	2.30
f. 学校の行事(運動会・文化祭等)に積極的に関わった	2.57

大学(院)時代についてお聞きします。

問 2 入学した学部学科に対する興味 3.27 (4)

問 3 大学に入学してから研究室に所属するまで

《研究室に所属するまでについて》	(4)
a. 専門科目(必修講義)	2.77
b. 専門科目(選択講義)	2.77
c. 実験・演習	3.02
d. 語学	2.13
e. 一般教育科目	2.19
f. 体育会・サークル活動	2.64
g. アルバイト活動	2.35

問 4 所属した研究室に対する関心 3.30 (4)

問 5 研究室に所属している時期について, あなたは次の活動にどの程度熱心に取り組んでいましたか。

注) 学部・修士・博士課程で研究室が異なるという方は, 最後に所属していた研究室についてお答え下さい。

《研究室に所属している時期について》	(4)
a. 専門図書・論文を読むこと(輪講を含む)	2.47
b. 卒業(修士・博士を含む)論文の執筆	2.91
c. 実験・演習	3.16
d. 研究室メンバーとの交流・会話	3.10

問6 **あなたの研究室での教育**をどのように評価しますか。

《研究室での教育に対する評価》	(4)
a. 指導教員の研究指導はわかりやすかった	2.91
b. 指導教員の研究指導は厳しかった	2.40
c. 指導教員による個別的な研究指導に満足していた	2.72
d. 研究室全体での指導体制に満足していた	2.74
e. 教員の教育への意欲に満足していた	2.82

問7 **大学時代を通じて、どのような教育機会が与えられていた**と思いますか。

《大学時代を通じて、与えられていた教育機会について》	(4)
a. 英語に(読む・書く・話す, を問わず)接する機会が多かった	2.05
b. 専門以外の知識(社会・経済・政治等)も必要とする課題に取り組むことが多かった	1.97
c. 課題の成果を発表・報告する機会が多かった	2.21
d. チームで1つの課題に取り組む機会が多かった	2.11
e. 睡眠時間を削らなければならないほどの課題を抱える機会が多かった	2.02

問8 **大学(院)卒業時点において、以下に示すような知識・能力をどの程度身に付けていましたか。**

《大学(院)卒業時点の知識・能力の獲得について》	(4)
a. 大学(院)の研究室における研究の範囲での専門知識	2.87
b. 大学(院)の学科(専攻)の範囲での専門知識	2.77
c. 基礎的専門知識	2.51
d. 基礎科学(数学・物理等)の知識・能力	2.34
e. 英語などの語学力	1.97
f. 社会・経済・政治に関する知識	2.02
g. 対人関係能力	2.69
h. プレゼンテーション能力	2.36

就職以降についてお聞きします。

問9 勤務状況について、あてはまるもの1つに○を付けて下さい。

1. 現在, 就労している 90.2%
2. 現在, 就労していない 9.4%

→ 問10～問21まで、「現在」を「就労した最後の仕事に従事していた時点」と読み替えてお答え下さい。

3. 就労経験はない → 問22にお進み下さい。 0.3%

問10 **最初の就職先に対する興味** 3.10 (4)

問11 **現在の仕事に対する興味** 3.18 (4)

問 12 仕事のタイプを下表のように大きく3つに分けたとします。あなたは、a. 初職に就いた時点で、どのタイプの仕事に興味がありましたか。また、b. 現在は、どのタイプの仕事に興味がありますか。

《仕事タイプ別の興味》	仕事のタイプ		
	専門分野のプロフェッショナル	1と3の中間	組織のマネージャー ビジネス部門
a. 初職に就いた時点	62.1%	30.9%	7.0%
b. 現在	28.9%	40.4%	30.7%

問 13 現在の仕事に対する熱心さ 3.45 (4)

問 14 あなたの勤務先についてお聞きします。下の【選択肢】から該当する番号をご記入下さい。

注) 転職経験のない方は、「現職」欄のみご記入ください。

転職経験のある方は、「初職」欄と「現職」欄の両方についてご記入下さい。

【初職】

a. 勤務先企業(自営)の業種	b. 規模
1 製造業・建設業 48.6%	1 29人以下 8.8%
2 商社・卸売 4.2%	2 30～99人 6.0%
3 百貨店・小売店・飲食店 1.8%	3 100～499人 14.5%
4 金融・保険業 0.9%	4 500～999人 10.2%
5 運輸・通信・電気・ガス 2.8%	5 1000人～4999人 21.9%
6 マスコミ・広告・調査 1.2%	6 5000人以上 19.8%
7 ソフトウェア・情報処理 3.9%	7 官庁(国家公務) 4.9%
8 教育 5.4%	8 地方自治体 12.9%
9 その他のサービス 5.5%	99 その他 0.9%
10 公務 19.8%	
99 その他 5.8%	

【現職】

a. 勤務先企業(自営)の業種	b. 規模
1 製造業・建設業 40.3%	1 29人以下 11.2%
2 商社・卸売 3.5%	2 30～99人 6.9%
3 百貨店・小売店・飲食店 1.1%	3 100～499人 15.3%
4 金融・保険業 0.7%	4 500～999人 7.2%
5 運輸・通信・電気・ガス 2.4%	5 1000人～4999人 16.1%
6 マスコミ・広告・調査 1.6%	6 5000人以上 18.9%
7 ソフトウェア・情報処理 3.8%	7 官庁(国家公務) 4.4%
8 教育 9.1%	8 地方自治体 17.3%
9 その他のサービス 8.8%	99 その他 2.6%
10 公務 21.5%	
99 その他 7.2%	

問 15 あなたの初職と現職について、お聞きします。

注) 昇進を経験された方、あるいは転職、配置換え等による仕事内容の変更を経験された方は、「初職」欄と「現職」欄の両方をご記入下さい。

これらの経験をされていない方は、「現職」欄のみご記入下さい。

【初職】

a. 勤務形態・地位	b. 仕事の内容	c. 大学時代の専門との関係
1 一般社員・職員 86.5%	1 基礎研究 12.9%	1 専門分野ではない仕事 14.6% (マネジメント・事務・営業等)
2 係長・主任など 4.3%	2 製品の企画・開発(応用研究) 27.2%	2 学部の分野という意味で大学時代の専門と関係あり 28.8%
3 課長以上の管理職 5.1%	3 情報処理 4.1%	3 学科(専攻)の分野という意味で大学時代の専門と関係あり 41.4%
4 経営者・役員・自営業者 0.6%	4 メンテナンス 1.7%	4 研究室の研究分野という意味で大学時代の専門と関係あり 15.3%
5 家族従業者 0.4%	5 生産準備・管理 8.8%	
6 パート・アルバイト・臨時 1.8%	6 マネジメント業務 1.4%	
99 その他 1.3%	7 営業・販売 10.1%	
	8 人事・教育・研修 0.4%	
	9 調査・広報 1.6%	
	10 その他事務 4.9%	
	11 教員 2.9%	
	12 その他専門職 21.6%	
	99 その他 2.3%	

【現職】

a. 勤務形態・地位	b. 仕事の内容	c. 大学時代の専門との関係
1 一般社員・職員 21.7%	1 基礎研究 5.2%	1 専門分野ではない仕事 32.6% (マネジメント・事務・営業等)
2 係長・主任など 22.6%	2 製品の企画・開発(応用研究) 16.8%	2 学部の分野という意味で大学時代の専門と関係あり 29.9%
3 課長以上の管理職 36.6%	3 情報処理 3.2%	3 学科(専攻)の分野という意味で大学時代の専門と関係あり 27.1%
4 経営者・役員・自営業者 12.2%	4 メンテナンス 0.8%	4 研究室の研究分野という意味で大学時代の専門と関係あり 10.3%
5 家族従業者 0.4%	5 生産準備・管理 4.6%	
6 パート・アルバイト・臨時 3.5%	6 マネジメント業務 20.0%	
99 その他 3.1%	7 営業・販売 7.3%	
	8 人事・教育・研修 1.8%	
	9 調査・広報 2.8%	
	10 その他事務 6.4%	
	11 教員 7.5%	
	12 その他専門職 18.8%	
	99 その他 4.7%	

問 16 現在の仕事を進める上で、専門以外の知識・能力をどの程度使っていますか。

《工学以外の知識・能力について》	(4)
a. 語学力	2.39
b. 市場・経済学に関する知識	2.47
c. 経営学に関する知識	2.33
d. 法律に関する知識	2.56

問 17 現在のあなたの状況についてお聞きします。

《現在のあなたの状況について》	(4)
a. いつも時間に追われていて、いらいらす	2.48
b. 朝起きるのがつらい	2.23

問 18 現在の就労時間、睡眠時間、年収についてお聞きします。

① 1週間あたりの平均的な就労時間 約〔 42.33 〕時間

② 1日あたりの平均的な睡眠時間 約〔 6.40 〕時間

③ 年収(税込み)は、下記の中のいずれに相当しますか。あてはまるもの1つに○を付けて下さい。

1 200万円以下 2.9%	6 600～700万円 9.8%	11 1100～1200万円 5.8%
2 200～300万円 3.2%	7 700～800万円 11.8%	12 1200～1300万円 3.9%
3 300～400万円 5.8%	8 800～900万円 12.2%	13 1300～1400万円 2.4%
4 400～500万円 6.9%	9 900～1000万円 10.8%	14 1400～1500万円 1.4%
5 500～600万円 9.2%	10 1000～1100万円 9.3%	15 1500万円以上 4.7%

問 19 あなたは現在、仕事の業績が良いほうだと思いますか。 2.89 (4)

問 20 全体として、あなたは現在の仕事に満足していますか。 2.96 (4)

問 21 現在、以下に示すような知識・能力をどの程度身に付けていますか。それぞれ、最もあてはまるもの1つに○を付けて下さい。

《現在の知識・能力の獲得について》	(4)
a. 大学(院)の研究室における研究の範囲での専門知識	2.41
b. 大学(院)の学科(専攻)の範囲での専門知識	2.54
c. 基礎的専門知識	2.52
d. 基礎科学(数学・物理等)の知識・能力	2.34
e. 英語などの語学力	2.32
f. 社会・経済・政治に関する知識	2.62
g. 対人関係能力	3.07
h. プレゼンテーション能力	2.95
i. 専門分野ではない仕事(マネジメント・事務・営業等)の遂行能力	2.89

読書についてお聞きします。

問 22 あなたは、大学時代において、以下のジャンルの本をどの程度読んでいましたか。それぞれ、最もあてはまるもの1つに○を付けて下さい。

《大学時代の読書について》	(4)
a. 思想書(啓蒙書・人生論等含む)	2.09
b. 純文学	2.17
c. 歴史小説・ノンフィクション・ドキュメンタリー	2.51
d. マンガ(マンガ雑誌を含む)	2.32
e. ビジネス書	1.67
f. 自分の専攻分野の専門書(教科書等も含む)	3.07
g. 趣味・娯楽書(スポーツ等も含む)	2.80

問 23 あなたは、現在、以下のジャンルの本をどの程度読んでいますか。それぞれ、最もあてはまるもの1つに○を付けて下さい。

《現在の読書について》	(4)
a. 思想書(啓蒙書・人生論等含む)	2.08
b. 純文学	1.88
c. 歴史小説・ノンフィクション・ドキュメンタリー	2.62
d. マンガ(マンガ雑誌を含む)	1.70
e. ビジネス書	2.50
f. 自分の専攻分野の専門書(教科書等も含む)	2.75
g. 趣味・娯楽書(スポーツ等も含む)	2.78

大学教育についてのご意見をお聞きします。

問 24 大学時代の経験が、これまでのキャリアに役に立った度合いを10点満点(全く役に立っていない=0点～非常に役に立っている=10点)で採点した場合、大学時代の次の経験に何点を付けますか。

		点数(10点満点)
勉強・研究活動	a. 専門科目の講義	6.27点
	b. 実験・演習	6.71点
	c. 専門図書・論文を読むこと(輪講を含む)	6.22点
	d. 卒業(修士・博士を含む)論文の執筆	6.43点
	e. 研究室メンバーとの交流・会話	6.63点
	f. 語学	4.63点
その他の活動	g. 一般教育科目	4.81点
	h. 体育会・サークル活動	6.18点
全体	i. アルバイト活動	5.52点
	j. トータルとして	6.41点

問 25 これまでのキャリアを踏まえて、今、大学時代をやり直すとしたら、次の項目にどの程度熱心に取り組みますか。

《今、大学時代をやり直すとしたら》	(4)
a. 専門科目の講義	3.38
b. 実験・演習	3.43
c. 専門図書・論文を読むこと(輪講を含)	3.31
d. 卒業(修士・博士を含む)論文の執筆	3.21
e. 研究室メンバーとの交流・会話	3.33
f. 語学	3.43
g. 一般教育科目	2.88

あなた自身のプロフィールについてお聞きます。

問 26 あなたのプロフィールについてお教え下さい。

- ① 性別 1. 男 85.8% 2. 女 14.2%
- ② 生まれ年 19〔 〕年
- ③ 最終学歴 1. 学部 69.8% 2. 修士 24.3% 3. 博士 5.9%
- ④ 卒業学部（研究科）・学科（専攻）・年
- 学部 東京農工大学〔 〕学部〔 〕学科〔西暦 〕年卒業
- 修士〔 〕大学〔 〕研究科〔 〕専攻〔西暦 〕年修了
- 博士〔 〕大学〔 〕研究科〔 〕専攻〔西暦 〕年修了(満期退学)

問 27 大学院進学に対するあなた自身の状況について、お答え下さい。

●大学院に進学されていない方

大学院進学について、あなた自身の状況に**あてはまるものすべてに○**を付けて下さい。

1. 大学院進学というものが、自分の進路の選択肢になかった 38.1%
2. 大学院進学も考えたものの、経済的理由から進学を選択しなかった 11.6%
3. 大学院進学も考えたものの、メリットが不明瞭だったため進学を選択しなかった 14.3%
4. 大学院進学を考えたものの、自己の教育研究上の能力が不十分だったため進学を選択しなかった 8.9%

●大学院に進学された方

どのような将来展望を持って大学院に進学しましたか。最もあてはまるもの1つに○を付けて下さい。

1. 自分の専門に密接に関連した仕事ができる企業・政府機関への就職を志望していた 59.2%
2. とくに専門にこだわらないものの、企業・政府機関への就職を志望していた 20.8%
3. 大学への就職を志望していた 4.9%
4. 未定だった 15.2%

自由記述

問 28 大学で獲得する知識・能力と仕事に必要な知識・能力について、あるいは大学教育一般について、何かご意見があれば、下に自由にご記入下さい。用紙が足りない場合は、別紙に書いて回答に同封して下さい。

ご協力ありがとうございました。